

**今日のトピック 原油価格の動向**

**足元は堅調だが上値は重い展開へ**

**ポイント1 原油は8月に入り急反発  
40ドル割れから2割以上の上昇**

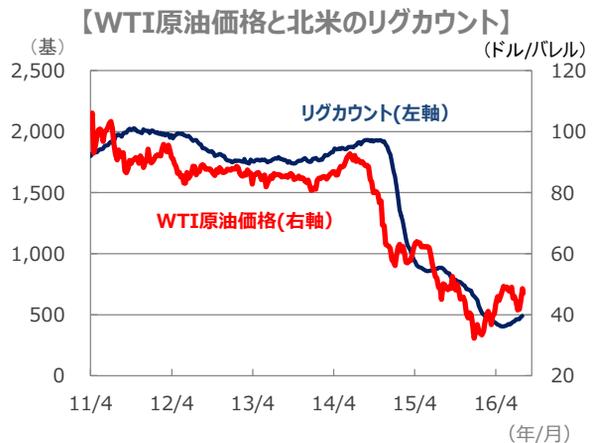
- 2月以降、上昇基調で推移してきた原油価格は、7月には軟調に転じ、8月2日には1バレルあたり40ドルを割り込む水準まで下落しました。需給改善が進まないうえ、複数の産油国で発生していた生産障害の回復や、米国のリグカウント（新規の石油井戸の掘削数）の増加が背景です。
- ただし、その後は反発に転じ、19日には48.52ドルまで急回復しました。

**ポイント2 9月にOPEC会合開催へ  
増産の凍結を打ち出せるか？**

- 原油価格反発の背景は、サウジアラビアのエネルギー産業鉱物資源相の、「9月にアルジェリアで予定されているOPECの非公式会合で原油の増産凍結を含む措置を協議する。」との発言です。これに呼応して、ロシアのエネルギー相も、「石油市場の安定に向けてサウジアラビアや他の産油国と協議を続けていく。」と協議に同調する姿勢を見せています。
- 需給実態の改善がなかなか進まず、市場参加者の売りポジションが積み上がっていた相場環境であったため、買戻しが市況上昇の一因とも考えられます。

**今後の展開 上値が重い展開を想定、40～50ドルのボックス圏での推移か**

- 今回の会合で、増産凍結の結論が出る可能性は低いと思われます。産油国がいずれも石油収入減を増産でカバーしているのに加え、これまで減少の一途をたどってきた、米国のシェールオイルのリグカウントが、油価の反発とともに増勢に転じているためです。
- 仮に増産凍結の結論が出ても、世界の原油需要の増加率は1%程度にとどまるとの見方が有力であり、需給のひっ迫感までは発生しないと思われます。このため、原油価格の上値は重く、当面40～50ドルのボックス圏での値動きになるのではないかと予想されます。



(注) 上図のデータ期間は2005年12月30日～2016年8月22日(週次)。  
下図のデータ期間は2011年4月22日～2016年8月19日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック! 2016年 8月22日 米国の株式市場(2016年8月) 堅調な推移が続く米国株式市場  
2016年 6月15日 「OPEC月報」、需給正常化を予想(グローバル)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。